

ここが問題！リニア新幹線

2015.11.21 発行 NO. 37 リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会 web-asao.jp/hp/linear

国交大臣のリニア工事承認の取消しを求め行政訴訟提起へ！

まず、川崎市内で「ストップ・リニア！訴訟キックオフ集会」開催



昨年10月17日、太田昭宏国土交通大臣(当時)が、JR東海の「中央新幹線工事実施計画(その1)」を承認したことから、リニア沿線住民ネットを中心に5,048人が承認処分の取消しを求めて12月16日に異議申立てを行ったが、その後、査庁である国交省(鉄道局)が「鋭意審査中」と言いながら、実質的に放置したままの状態が続いている。一方、JR東海は中央線測量やルート上の井戸調査などを行なう一方、品川駅や南アルプストーンネル工事の入札を行い、施工業者を決めるなど、着工に向けに向けて準備を進めている。

(11月4日麻生市民館で開かれた川崎・町田市民の集会) 備を進めている。

このような状況で着工を認めることはできないとして、私たち沿線ネット参加グループは弁護士との打ち合わせや勉強会を重ね、行政訴訟への準備を進め、来春をめどに工事計画承認処分の取消しを求める行政訴訟を東京地方裁判所に提起する方針を決めた。10月30日には、参議院議員会館で、訴訟に向けての決意を固める院内集会を開催し、11月から12月にかけて沿線各地で「ストップ・リニア！訴訟スタート集会」を連続的に開催することとした。

ストップ・リニア！訴訟 川崎・町田市民キックオフ集会、95人参加

11月4日夜、川崎市麻生区の麻生市民館大会議室で、沿線の訴訟スタート集会の第一陣として、リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会とリニア中央新幹線を考える町田の会の共催で、川崎・町田市民のキックオフ集会が開かれ、市民95人が参加した。

東京・神奈川連絡会の山本太三雄共同代表が主催者として挨拶し、行政不服審査法による異議申立て(不服審査請求)がたな晒しになっているため、リニア工事の中止を求めて行政訴訟を起すに至ったと、この間の経緯を説明した。このあと、武蔵野大学工学部教授の阿部修治さんが『リニアの安全性に多くの疑問』というテーマで基調講演を行った。阿部さんはこの中で、「リニアは浮上して走るため、車輪走行に比べ磁気的な摩擦力が加わる。また、空気抵抗は速度の2乗に比例するため、高速のリニアはそれだけ空気抵抗を受ける。さらにリニアモーターは通常の回転モーターに比べ効率が悪い。以上の結果として、時速500kmのリニアの走行に要するエネルギーは現行新幹線の約4倍に上る」と指摘した。また、安全性について、「時速500kmで衝突した場合は、住宅が跡形も無く吹き飛ばされ、立木の皮がはぎとられるF5レベル(藤田スケールの最高レベル)の竜巻と同じ衝撃を受ける」と説明。



さらに阿部さんはリニアの地震のリスクについて、「JR東海はリニアは浮いているから地震に強いとか、ガイドウェイがあるから脱線の心配は無いと説明しているが、地震によるガイドウェイの小さな変形・損傷でも走行に重大な影響を与える可能性がある。緊急時に作動する早期検知システムがあっても、高速になるほど停止に時間がかかるし、震源が近い場合は有効ではない。そもそも、ガイドウェイ自体が障害物に対し脆弱である」と述べ、リニアの安全技術が確立していないことに警告を發した。

また、ゲストとして「リニア計画の中止を求める市民運動」についてスピーチしたフリージャーナリストの榎田秀樹さんは、沿線各地をこまめに取材した体験を踏まえ、「残土問題や地下水の涸渇、残土処理についてリニアが多くの課題を残したまま工事を見切り発車するのは許されない」と述べたうえ、大阪府摂津市がJR東海を相手取った、協定違反の井戸掘削の訴訟に触れ、「自治体との協定を反故にしても当然とするJR東海の傲慢な姿勢は、自治体や住民の声を無視するリニア計画にも表れている」と批判した。また、「沿線では強制的に立ち退きを迫られる住民も出てくるだろうが、皆さんが住民に寄り添う姿勢を貫くことが大切だ」と述べ、沿線グループの役割の重要性を強調した。

そして集会の後半に、リニア訴訟について、準備を進めている横山聡弁護士が講演し、「できるだけ多くの原告を集め、サポーターを増やすことがリニア問題を国民的な課題として知らしめ、また訴訟を有利に進めることにつながる」と、リニア訴訟の意義を述べたうえ、「リニアの工事や走行によって直接被害を受ける住民の方々を原告として多く結集してほしい。そのことで、リニア計画の不当性を実質的に追及できる」と述べ、沿線グループの更なる努力を求めた。

このあと、天野捷一共同代表が登壇し、「沿線住民だけでなく、南アルプスを愛する登山家や長野県の大鹿村や阿智村に移住した若者たちも計画見直しで声を上げている。リニアは要らない、工事は許してはならない。訴訟に向けて東京・神奈川連絡会として、様々な世代、様々な分野の方々の先頭に立ってリニア訴訟の勝利に向け先頭に立って活動します」と決意を表明した。最後に矢沢美也共同代表が閉会の辞を述べ、「さまざまな機会をとらえて原告・サポーターを集めます」と述べ、振込手続きについて説明し、多くの方々の訴訟参加を呼び掛けた。会場で原告16人、サポーター7人を受け付けた。

ストップ・リニア！訴訟スタート院内集会、14社などから20人近い取材陣

10月30日午後、参議院議員会館で「ストップ・リニア！訴訟院内スタート集会」が開かれ、およそ70人が参加した。初めに、リニア新幹線沿線住民ネットワークの川村晃生共同代表がなぜ行政訴訟を提起するかについて報告し、「国交省が異議申立てを放置していること。以前から行政訴訟について考慮してきたが、今がその時期と判断した。山梨実験線での環境破壊、ずさんなアセス、住民の理解が得られないJR東海の説明など、リニア計画は事業として実施は不法、不当である。多くの原告を集め、国民的関心を集める中で訴訟を進めたい」と述べた。続いて、訴訟準備中の関島保雄弁護士が立って、「JR東海によるアセスには、環境影響評価法、鉄道事業法、全国新幹線鉄道整備法に抵触する内容があり、訴訟ではこのようなリニアを着工承認した国交省の事業認可に法的な瑕疵があることを争う」と、訴訟のポイントについて説明した。このあと記者会見が開かれ、集会主催者のリニア新幹線沿線住民ネットワークから、賛同著名人25人が参加した「リニア計画の見直しを求める共同アピール」の記者発表、次いでリニア訴訟について説明があった。記者からは、「訴訟は国を相手取ったものになるが、JR東海と直接対峙しないのか」との質問があり、関島弁護士は、「JR東海が情報開示が無いまま、国交省が事業を認可した。訴訟の過程で、JR東海のリニア事業の欠陥や住民無視の姿勢を明らかにする」と回答した。



ストップ・リニア！訴訟に向けて川崎・町田で原告200人を実現しよう！

リニア沿線ネットは、昨年の異議申立ての際、5,048人の申立て参加者を集めました。今回はその約2割にあたる1,000人の原告を集め訴訟を提起する方針です。東京・神奈川連絡会と町田の会が集約した異議申立て人は合わせて1,150人でした。原告募集に当っては、当面その2割に当たる200人を目標に参加者を集めましょう。

東京・神奈川連絡会の会員は原告になって、まず足元を固めましょう

原告やサポーター募集に当っては、まず直接リニア問題と向き合い活動してきた、東京・神奈川連絡会や町田の会のメンバーが率先して原告になることが、訴訟に向けての決意を示し、広く訴訟の原告や支援者の理解や協力を得ることにつながります。まず、自ら原告に参加し、そしてリニア・パンフやチラシを活用して原告やサポーター参加者を増やしましょう。



ストップ・リニア！訴訟維持のためのカンパのお願い(できれば複数口で)

<原告>1年目5,000円、2年目以降3,000円

<サポーター>1年目2,000円、2年目以降1,000円

振替口座記号番号:00120-3-489093

口座名:リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会

各地で訴訟参加の訴え・・・あらゆる機会をとらえて原告・サポーター参加を要請しよう

10月24日 名古屋市(ウィル愛知)
「リニア中央新幹線を考えるつどい」



この集会は、党内にリニアプロジェクトをつくり、沿線都県ごとに所属国会議員や地方議員がリニアの問題点を追及している日本共産党が開いたシンポジウム。380人が詰めかけ満員となりました。ゲストは、千葉商科大学院客員教授・橋山禮治郎さんと、日本自然保護協会の辻村千尋さん、それに日本科学者会議の長田好弘さん。沿線ネットからは天野共同代表が参加し、山梨と川崎のリニアパンフを配布し、工事計画承認取消しの行政訴訟への支援を強く訴えました。

10月25日 東京・亀戸中央公園
「地区労・団結まつり」



日航や郵貯などの争議を支援している地区労が主催して、沖縄の辺野古基地反対を支援する「団結まつり」が開催され、冒頭、東京・神奈川連絡会の矢沢共同代表がリニアの問題点を指摘した上、ストップ・リニア！訴訟への参加を訴えました。(写真)

会場ではリニア問題を勉強する「車座ミーティング」が行われ、矢沢共同代表、天野、三枝の三人が参加しました。後日、団結まつり参加者からサポーターの申し込みがありました。

川崎市渋川雨水貯留管(幸区)大深度トンネル見学会(12月3日)の参加者募集



シールドマシンによる
直径10m長さ1.7km
地下50mの大深度

11月28日、景住ネット集会以リニア報告

11月28日(土)午前10時から午後4時半まで南武線武佐日中原駅前のエポックなかはらで、「景観と住環境を考える全国ネットワーク」(景住ネット)の全国集会在開催される。当日は、新国立競技場や武蔵小杉駅周辺の再開発などについて、都市デザインの研究者の講演があります。午前中はまちづくりや緑地の保全などに取り組む市民グループから問題点の指摘や活動報告が予定され、東京・神奈川連絡会からも天野共同代表が、リニア新幹線が環境や生活に与える影響などについて報告することになっています。行政訴訟に向けて作成したリニアパンフも配布してサポーターの募集も行ないます。参加をお願いします。

なお、参加費千円が必要です。

小杉駅周辺の高層マンション群。立ち退きや風害など深刻な影響が...



ここが問題！リニア新幹線NEWS NO. 37

発行：リニア新幹線を考える東京・神奈川連絡会
天野捷一(中原・高津)090-3910-8173
山本太三雄(宮前) 090-8775-1879
矢沢美也(麻生・多摩)090-6108-6568

川崎市下水道局が12年の歳月と440億円を投じて建設した雨水貯留管ですでに完成している。目的はゲリラ豪雨などで都市災害が起きないように、貯水管トンネルに雨水をためるため、容量は25mプール4百杯分になるという。連絡会では、東京湾アクアライン、大師河原貯留管工事現場に続く3回目のトンネル見学になります。見学会の日時は以下の通りです。

主催：宮前の会

日時：12月3日(木)午後3時～4時

場所：川崎市幸区矢上4-1

電話：044-580-6006

参加希望者は今月27日までに、連絡会のM.Lか、天野、山本(太)、籠島あてに申し込みください。20人で締め切ります。上記3人のクルマで2時50分までに現場に向かいますピックアップの場所時間等は締め切り後にお知らせします。

溝の口駅前で、リニア問題を市民にアピール



11月15日、脱原発かわさき市民、秘密保護法を考える川崎市民の会と合同で、午後2時から3時間にわたって、南武線「武蔵溝ノ口駅」前のペデストリアン・デッキで、リレートークや署名、チラシ配布を行いました。こうした市民グループが共同して、それぞれの課題についてデモンストレーションを行うのは初めてです。

各グループの幟旗や横断幕が駅前の手すりにはずらりと並び壮観でした。この日は合わせて30人近い人が参加し盛り上がったイベントでした。八王子から来た方からは、市内の運動場の新設の盛り土にリニア残土が使われるのではという情報も寄せられました。